



高砂青松 Rotary Club

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan



ロータリー財団について

ロータリー財団委員会 鹿間 虹美 会員

国際ロータリー (R.I.)

2007年6月にR.I. 理事会は、R.I. の使命は「他者に奉仕し、高い倫理的基準を促進し、事業と専門職務および地域リーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進すること」と改訂した。



ロータリー財団 (T.R.F・正式には国際ロータリーのロータリー財団)

R.I. 定款第12条と細則第21条に規定されているロータリー財団は、1917 (T6) 年のアトランタ国際大会で基金として発足し、1928 (S3) 年のミネアポリス国際大会でロータリー財団と名付けられた。

ロータリー財団の目標は、博愛、慈善、教育または人道的という特質をもつ明確で効果的なプログラムの促進を通じて、国際理解と友好的関係を助長することである。

ロータリー財団の使命は、国際レベルの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じて世界理解と平和を達成しようとする国際ロータリーの努力を支援することである。

2007年規定審議会では「ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解・親善・平和を達成できるようにすること」と決議された。

標語は「Doing good in the world」

恒久基金 (P.F・permanent fund)

投資収益だけを財団プログラムの支援に使う基金。金額を問わず、恒久基金と指定して寄付出来る。寄付者、クラブ、地区の寄付合計に加えることが出来る。1,000ドル以上の寄付は、ベネファクターとして表彰される。10,000ドル以上の個人からの現金寄付、寄付者からの指示のない遺贈は、恒久基金の下に入れられる。

ポール・ハリスフェロー (P.H.F)

T.R.F に年次寄付又は使途指定寄付・或はその合計で1,000ドル以上を財団に寄

付した個人

財団の友

以前ポール・ハリス準フェローと呼んでいたものを再定義し，内容も一部修正されている。毎年，年次寄付を100ドル以上する人が財団の友。

ベネファクター

T.R.F 恒久基金に寄付する旨を遺言状に記載した人，または米貨1,000ドル以上を寄付した人。

マルチプルフェロー

一度ポール・ハリスフェローの認証を受けた人が，1,000ドルを超えて追加寄付をすれば，その人はマルチプルフェローの資格を得る。2,000ドルから9,000ドルまで8段階ある。

W.C.S

国際ロータリーのプログラム。ロータリークラブがある国の社会奉仕プロジェクトを別のロータリー国のクラブが支援するもの。一定の条件を備えるとマッチング・グラントの申請資格がある。

D.D.F (地区活動資金)

年次寄付と恒久基金利息の50%。(2006～07年度に限り恒久基金の利息は凍結された)地区が用途決定に発言権をもつ。

認証ポイント

以前の据え置きクレジット。既にポール・ハリスフェローになっている人が年次寄付又は用途指定寄付をすると，その額がポイントとなり自分がマルチプルフェローになったり，他の人にポイントを譲れる。

マッチング・グラント (Matching Grant)

3H補助金とともに人道的補助金の一つで，ある国のロータリークラブが人道的プロジェクトを実施しようとしたが資金や専門知識が不足している場合，海外に援助を求める。又，他の国の為に尽くしたいと思っているロータリークラブや地区が貢献出来る場を探す。この様なケースに役立つのがマッチング・グラント。

ロータリークラブが他国のロータリークラブを援助するのがW.C.Sであり，そのプロジェクトに補助金を申請すればT.R.Fのプログラム，マッチング・グラントになる。

ポリオ・プラス (Polio Plus)

3Hプログラムの最初のプロジェクトでR.I.の75周年基金から補助金が出た。1985(S60)年にポリオと共にハシカ，ジフテリア，結核，百日咳，破傷風の五つをプラスして同時追放を目的としているためポリオ・プラスと呼んでいた。現在では世界的なポリオ撲滅運動がもたらした遺産のことを指す。2007年に70%以上の子ども

も達がポリオのない国に生活している。4カ国（ナイジェリア、インド、パキスタン、アフガニスタン）を除く全ての国で野生株のポリオウィルスの感染が絶たれている。

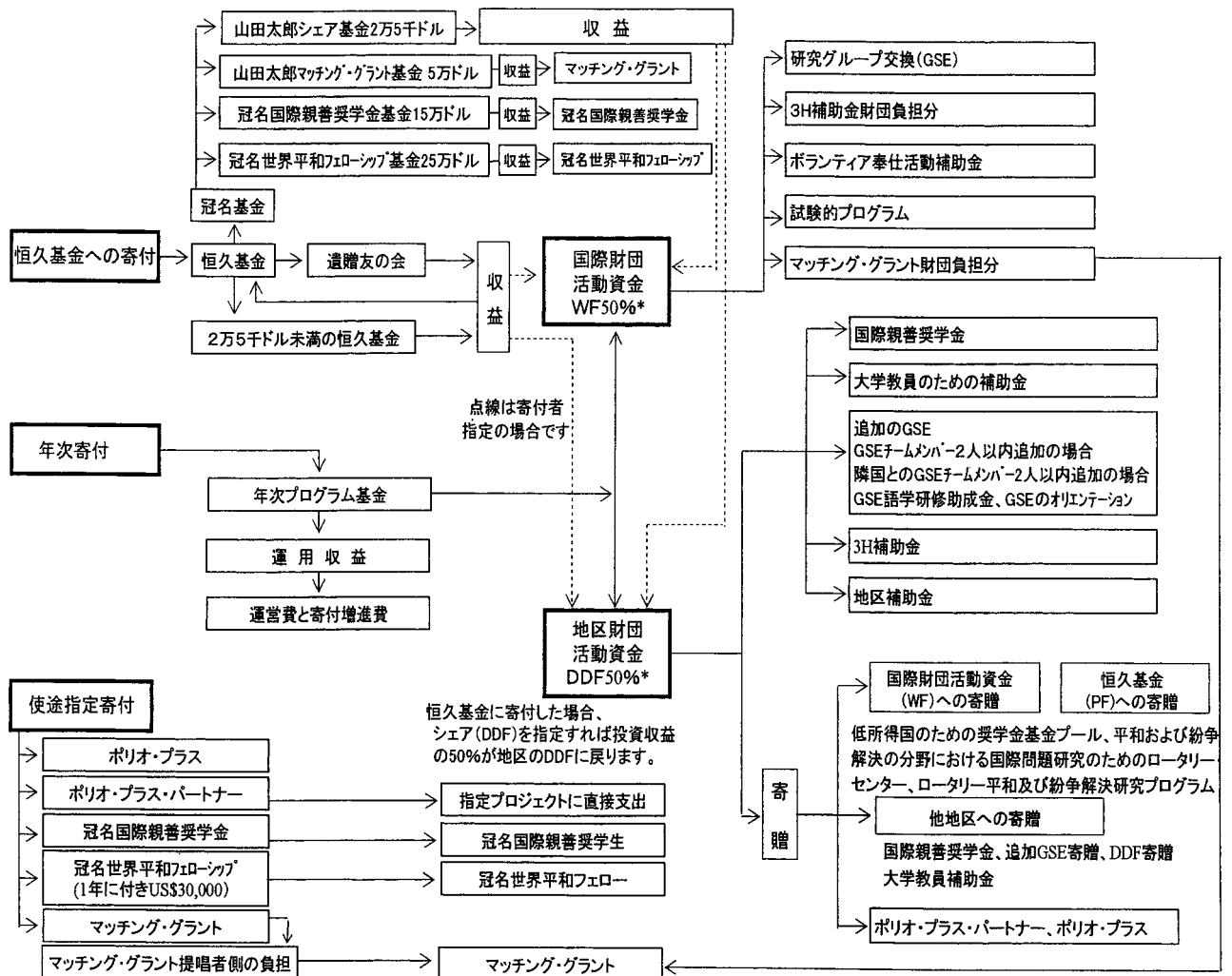
G.S.E

1965（S40）年に発足した国際交流プログラムで、25才～40才迄のチームメンバー4名とロータリアンのリーダーがG.S.Eチームを構成し、2カ国がチームを交換し互いの国の文化や職業について学ぶもの。居住している国の国籍を有し、2年間の職歴が必要。

3Hプログラム（Health, Hunger and Humanity Grants）

人道的プログラムの一つでR.I.がロータリー創始75年を記念し3H補助金プログラムを設立した。1982～83年度にT.R.Fに引き継ぐ。国際間の理解，親善及び平成を促進するための方法として，人々の健康状態を改善し，飢餓を救済し，人間的社会的発展を計ることを目的としている。

ロータリー財団への寄付金の行方





President

会長の時間

先週のガバナー公式訪問は、皆様のご協力によりつつがなく終わることができました。有り難うございました。

例会場でのガバナー演説は、皆さんお聞きになった通りですが、例会に先立って行われた会長・幹事懇談会の模様についてご報告させていただきます。

1. 当クラブの現況について

会員数、会員の年齢分布等に関して、理想に近いとの感想を述べて頂きました。特に年会費額に強く関心を持たれたようです。

2. 例会第一

「例会第一」に重点を置き、ファイアミーティング・新会員のオリエンテーション後の親睦会等非公式会合をまじえて、親睦を図って頂きたい。とのご意向をお持ちでした。

3. ロータリー財団の簡素化

本日のプログラムになっておりますロータリー財団は、大変複雑となっております。この複雑さを何とか簡素化したいとの思いから、日本事務局財団室の人員削減、経費削減を含めて、ロータリー財団を簡素化し、理解しやすいものとするために、定期的に検討会を重ねているようです。もっとも、財団の簡素化は、日本だけで結論が出せるものではありませんが、努力を続けて頂いていることに敬意を払いたいと思います。

4. 会員増強

職業分類基準表に欠番が多くなっているが、大分類は一旦全て掲げて職業分類の面から人材を見つめ直しては如何との助言を頂きました。また、若い会員から友人・知人に声をかけるとか、ご婦人と連携を取るという方法も考えてみては、とのアドバイスも頂戴いたしました。

以上、和やかな雰囲気の中で協議を終えることができました。ガバナーとの親睦も深まり、感謝しております。



プログラム予定

11月12日(水)	11月19日(水)	11月26日(水)	12月3日(水)
卓話 志方 正昭 会員	卓話 大橋 卓司 会員	卓話 田中 申明 会員	上期事業報告



Donation

ニコニコ報告

鹿間 行雄

鹿間虹美さん，R財団のお話を楽しみにしています。よろしくお願ひ致します。

岡本 崇司

鹿間虹美会員，本日は卓話ご苦労様です。

竹原 俊三

内海先生，昨日はお付き合い頂き有難うございました。助かります。

志方 正昭・大橋 卓司

王 彩麗さん，ようこそ！

松尾 毅

今月よりタイ国の施設に出張いたしますので -。

西中 亮二・松尾 毅

ロータリー財団月間です。鹿間さんに講師をお願いしました。よろしく。

菊地 敬子

井野先生，お忙しい所FAX頂き有難うございました。10日(月曜日)に仲間と行く予定です。

菱田副会長，この度はお世話になり有難うございました。また宜しくお願ひします。

増田耕太郎

誕生日お祝ひ有難うございました。

鹿間 虹美

結婚記念日の花贈呈有難うございました。なお今日は卓話を致します。

森脇 祥文

結婚のお祝ひありがとう御座居ました。

吉田 一富

遅くなりましたが結婚お祝ひありがとう御座居ました。

都倉 達殊・松尾 毅

結婚記念日の花贈呈有難うございました。

菱田 克己・中谷 利幸・亀本 泰司

柿木 國夫

花を飾りましょう。

嶋谷 拓雄・岩崎 勇人

早退いたします。



Secretary

幹事報告

第16回 通算1380回

1. 李東建R.I.会長からの書簡が届いております。
2. 宮本ガバナーより公式訪問の礼状が届いております。
3. パーミンガム国際大会のご案内が届いております。
4. 回覧その他
国際ロータリー第2680地区直前ガバナーより2007-2008年度地区大会記録誌ならびに年次報告書が届いております。
国際ロータリー第2680地区社会奉仕委員会より「第11回学習障害児理解のための基礎と実践講座」開催のご案内が届いております。
日時：平成21年1月18日 13：00～

場所：西山記念会館

国際ロータリー第2680地区新世代委員会よりスポーツ大会のご案内が届いております。

日時：平成20年12月7日13：00～

場所：しあわせの村

高砂市より新春交礼会のご案内が届いております。

日時：平成21年1月5日 11：00～

場所：福祉保健センター中ホール

加古川平成ロータリークラブよりI.M.講師の著書が届いております。

兵庫県プロバスケットボール合同例会の記録が届いております。



高砂青松ロータリークラブ

通 算	第 3 7 5 回
2008 ~ 2009	第 5 回
日	平成 20 年 11 月 5 日
場 所	高砂商工会議所

出席者				臨時出席者	
鹿 間 行		増 田		竹 原	副幹事
菱 田		森 脇			
岡 本		矢 野	×		
小 林		鹿 間 虹			
廣 瀬		原 田			

報告事項： 出席報告 (菱田 克己) (右記参照)
 会費納入状況 (小林 久夫) 10月末 98.08%

議案事項：

- 11月, 12月のプログラムの件 (右記参照)承認
- 新世代会議の件 (12月24日(水)例会分)
 12月23日(火・祝) 会員集合時間 = 12時で決定
- クンパンヤ文庫収支報告の件【国際奉仕委員会】
 次の通り報告され承認された。
 1. 預かり出金 ￥120,000
 支払 クンパンヤ文庫 30,000 B (Baht) × ￥3.3/B = 99,000
 R.C.文庫会議費 3,000 B (Baht) × ￥3.3/B = 9,900
 ￥108,900
 2. 精算返戻金 ￥120,000 - ￥108,900 = ￥11,100
- 「タイ小学校の図書支援プロジェクト」に対するWCS特別会計助成金による補助金請求申請について
 地区世界社会奉仕小委員会に「タイ小学校の図書支援プロジェクトにWCS特別会計助成金希望額15万円を申請する」ことが了承された。
- その他
 ロータリー財団寄付の件.....会員に寄付の依頼することを決定
 BAN-BANテレビ「チャンネルガイド」2009年1月号への「年始ご挨拶」
 名刺広告(1万円)協賛の件
 ・ H19 / 11月度理事会において「2008年1月号に限り協賛することになっている」ことを踏まえ2009年1月号は協賛しないことになった。

出席報告

9月度 本クラブ出席率 65.59% メークアップ率 13.98% 修正出席率 79.57%
 10月度 本クラブ出席率 74.59% メークアップ率 % 修正出席率 % (途中経過)

	9/6	9/10	9/19	9/24	10/1	10/8	10/22	10/29
会 員 数	52	52	52	52	52	52	52	52
出 席 数	22	35	30	35	37	31	36	34
メークアップ	12	3	6	5	3	5		
欠 席 数	12	7	11	8	6	10		
出席免除	9	9	9	9	9	9	9	9

11, 12月のプログラム

11 月		12 月	
5	卓話 鹿間 虹美会員 【ロータリー財団委員会担当】	3	上期事業報告
12	卓話 志方正昭会員	10	年次総会・上期事業報告
19	卓話 大橋卓司会員	17	
26	卓話 田中申明会員	24	12月23日(火・祝)に変更 新世代会議 於:高砂市青年の家 体育館 【新世代委員会担当】
		31	休会【定款第6条第1節(c)による】

誕生祝
 増田 耕太郎 会員
 辻田 重 恵 会員
 三輪 佳 公 会員



結婚祝
 鹿間 虹 美 会員
 川崎 一 生 会員
 松尾 毅 会員
 都倉 達 殊 会員
 青木 裕 加 会員
 濱田 喜 重 会員
 森脇 祥 文 会員
 原 田 義 之 会員



例会記録 2008. 11. 5 (水) 通算1456回

ソング 「君が代」「我等の生業」「歓迎歌」

本日のゲスト 王 彩麗さん

来訪ロータリオン報告 植 杉 安 夫 様(高砂R.C.)

出席報告 10月22日 会員数 52名 欠席者 8名 出席率 80.95% <修正による>
(この内出席免除者9名)
11月5日 会員数 52名 欠席者 10名 出席率 76.19%
(この内出席免除者9名)

播磨ゆかりの偉人伝 ⑬

柳田 国男 (やなぎた・くにお) 民俗学に心血注ぐ

日本民俗学の創始者である。そもそも民俗学とは何か。簡単にいえば、一般庶民の生活・文化の発展の歴史を研究する学問だ。柳田国男は日本民俗学の体系化を目指し、実証主義による民俗学を構築した。

明治8(1875)年、兵庫県神東郡田原村辻川(現神崎郡福崎町)で儒者で医者で松岡操の6男として生まれた。柳田国男は回想録「故郷70年」のなかで「私の家は日本一小さい家だ。実はこの小ささという運命から、私の民俗学への志も源を發した」と述べている。

13歳のとき、長兄を頼って上京。森鷗外と出会い、松浦菽坪に師事した。第一高等中学校在学中には「文学界」「国民の友」「帝国文学」などに投稿。明治30(1897)年には国木田独步、田山花袋らと「抒情詩」を出版した。

東大法科を卒業後は農商務省に入りエリート官僚となった。その翌年の明治34年、長野県飯田の柳田(やなぎた)家の養子となり、3年後、養父直平の四女 孝と結婚した。

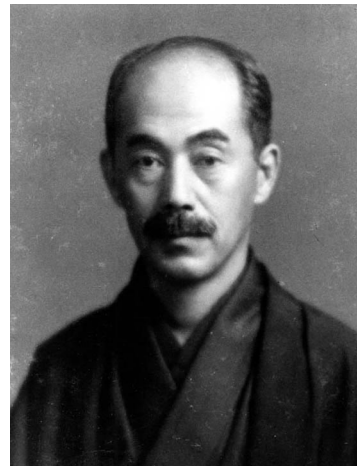
本格的に民俗学の研究を始めたのは明治40年ごろ。日本列島の隅々まで足を運び、目で確かめたこと、耳で聞いた伝承を大切にされた。文献資料類には一線を引いていたのである。柳田民俗学の真骨頂がそこにあった。

明治42年、民俗学最初の「遠野物語」を刊行、注目を浴びた。また、大正2(1913)年には雑誌「郷土研究」を創刊、日本民族学の確立に貢献した。

官界を去ったあと朝日新聞社客員を経て、昭和22(1947)年には自宅書齋に「民俗学研究所」を設立。昭和37年、心臓衰弱のため87歳で死去するまで研究を続けた。

その功績から文化勲章を受章し、生まれ故郷では名誉町民第1号。福崎町では「柳田国男・松岡家顕彰会記念館」が建設され、その西隣には生家が移設・保存されている。

(主な参考文献=寺田峻・著「播磨百人伝」神戸新聞総合出版センター)



会長 鹿間行雄 幹事 岡本崇司 クラブ会報委員長 菊地敬子

例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室(2F)

事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (079) 443-0500(代)